



『劉連仁生還60周年記念の記録』 発刊記念集会在当別町で。



水谷のぼる作「風に吹かれる啄木」(2007年
ブロンズ) 小樽文学館蔵

誰が見ても
われをなつかしくなるごとき
長き手紙を書きたき夕

(石川啄木『一握の砂』より)



劉連仁が当別町の山中で「発見」されたのは、一九五八年のこと。昨年は、その生還六〇周年の節目の年であり、当別町の劉連仁生還記念碑前と若葉会館で記念集会在開かれ、かつてない規模の参加者があり賑わった。

その集会的記録がこの程纏められ発刊された(II写真、四判・四十二頁・頒布五百円)。

九月一日(日)当別町若葉会館で記念の集会在開かれ、町民だけでなく札幌などからも多数の参加者があり、とてもいい集いだった。

劉連仁は怒りを込めて、そもそも平和でなく戦争があったから私は見知らぬ国の見知らぬ土地に連れてこられた、と語ったことを受けて、大澤会長は、劉連仁が

「劉連仁物語」(清水三喜雄 作・大澤勉 絵)の原画展も開かれ、絵本の販売も行われた。集会では、大澤勉

「劉連仁生還記念碑を伝える会会長」が「開会のあいさつ」をおこない、生前の劉連仁が当別町を訪れ町民らと交流した時のエピソードを語った。

劉連仁は怒りを込めて、そもそも平和でなく戦争があったから私は見知らぬ国の見知らぬ土地に連れてこられた、と語ったことを受けて、大澤会長は、劉連仁が

「生還」を果たした意味を考える。それは単に故郷に帰りたいという思いだけではなく、誰にも知られずの中野垂れ死すれば戦争の悲惨さを伝えられないという強靱な意志があったからではないかと語る。

オレがオレが、自国中心主義が蔓延って戦争も厭わない雰囲気の中で、「戦争は絶対にダメだ」というふうな劉連仁の生涯を受けとめる、同伝える会のさやかな活動の持続、この記念誌の発刊は、そうした危険な風潮への抵抗の一里塚だと、大澤会長は「あいさつ」した。

その後、同伝える会会員らが苦心して制作したスライド「劉連仁生還六〇周年・その歩み」が上映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

劉連仁(りゅうりえんれん) 1913~2000

貧しい農夫だった劉連仁は、戦時中身重の妻を残し、中国山東省から強制連行され北海道沼田町の鉢山で過酷な労働を強いられた。終戦直前に脱出し、戦争が終わったことも知られず(日本国に告知の責任がある)、北海道の山中を13年間も彷徨った。

1958年2月当別町の山中で袴田清治が発見され奇跡の生還を果たした。無事祖国に帰還した後、1991年、95年、98年に三度当別町を訪れ町民らと交流した。この間日本国の謝罪を求め訴訟を起こす。死去後、2001年第一審で勝訴するも、07年最高裁で棄却される。

02年には草の根運動で劉連仁生還記念碑が建立される。その後、「劉連仁生還記念碑を伝える会」が発足し、日中友好だけではなく非戦の活動を継続している。毎年記念碑の「磁場」に惹きつけられるように全国から様々な団体、個人が訪れ、同伝える会と交流している。

りたくないとい見ぬ振りをしてたり無関心になっていたりとしても、政治や戦争はとことん我々の生活に刺さりこんでくるのである。そうして善良で貧しい若い農夫を、見たことも聞いたこともない北海道沼田に引きずり込み、十三年もの酷寒の地を彷徨わせ、小突き廻したのである。

それだけではなく生涯にわたって深山恐怖症の悪夢のなかに突き落としたのである。戦争というのは、本当に無残で残酷だ。

参加者による感想交流会では、今年九十二歳になる木屋路喜一郎さん(劉連仁救出に関わった生き証人)が、当時の模様を語った。参加者からは、異口同音にキナ臭い状況への危機感が語られ、戦争の悲惨さを次の世代にどう伝えたいか、というのかが真摯に話し合われた。

同伝える会顧問村上弘志(元当別町議)の「開会のあいさつ」

「当別新聞以後～状況から・状況へ」 企画室

〒001-0021
札幌市北区北21条
西8丁目2-20-604 清水方
☎0115770161
編集人
清水 三喜雄

ブログアドレス
smikio1948.org/mikio/
メールアドレス
9891_oltg@jcom.zaq.ne.jp

当別短歌会詠草

九月 長月

酸素手にひと月振り帰る家のおんこの上のななまかまどの実
星月夜静の世界に虫達が声ふるわせて秋の夜長を
電子辞書現役の娘と同じもの買いて嬉しき二十年前
我が庭のサクラ老木な思ふ枯葉と共にまた花咲かす
白樺の木末のひかり映ゆる背にきみと添ひたる月日を想ふ
深緑は雨に洗はれ色あたら濡れた舗道に映るビル街

大澤隆子
長谷川晴枝
吾妻文子
後藤まゆみ
大口ひろみ
磯石万里

「劉連仁生還60周年・その歩み」が上映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。

映され、この六〇年間の持続的な歩みがよく分かった。



劉連仁生還60周年記念の記録」発刊、記念集会在
2019年9月1日
茨木のり子の長編詩「りゅうりえんれんの物語」を朗読する当別町民有志。

日時 一〇月五日
午後一時半開演
会場 かでる2・7
講演 松木洋一(日本獣医生命科学大学
名誉教授)
参加費 一〇〇〇円
主催 NPOさっぽろ
自由学校「遊」

公開講演会
「家畜は感受性のある生命存在だ！」
〜日本と世界のアニマルウェルフェア(家畜福祉)最新事情〜
アニマルウェルフェア(家畜福祉)という聞きなれない言葉。人も動物も満たされて生きている状態というこのようだけれど、そんなこと可能なの？最新事情を聞いてみたい。

お知らせ
公開講演会
「家畜は感受性のある生命存在だ！」
〜日本と世界のアニマルウェルフェア(家畜福祉)最新事情〜
アニマルウェルフェア(家畜福祉)という聞きなれない言葉。人も動物も満たされて生きている状態というこのようだけれど、そんなこと可能なの？最新事情を聞いてみたい。